

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

地域の環境を活かして／学校法人水谷学園認定子ども園 北陵幼稚園

園の周辺の地域環境を、保育の充実のために、どのように活用していますか？

地域の人、モノ、場などを子どもたちの興味・関心や好奇心、探求心など子どもの思いに立って、保育に活かすことは、「科学する心」を育むことに繋がります。

保育者が、子どもの思いに寄り添い共感し、地域環境を活かすことで子どもの興味の深まりや意欲の高まりに繋げるような工夫をしている事例をご紹介します。



● 風の遊び／5歳児

✦ 風への興味から風車作りへ

- 例年、斐川平野を吹く風は強く、4月入園・進級当初に吹く風は子どもたちの遊びの大きな環境だった。しかし、今年はその「風」があまり吹かなかった。ある日強風が吹いた。思わぬ強風に遭遇した子どもたちは、風への興味をもった。
- 風に興味をもった子どもたちは、テラスに出て風の音を聞いたり、様々な風車を作ったり、風を探したりなど、自らの力で遊びを楽しんでいた。
自分で様々な材料を選び、風車を作る子どもたち…。

Hちゃん：「先生見て！風を出すと回るよ…」団扇であおぐ仕草で風を起こす。
Dちゃん：「コップを切ってくっ付けるよ。風が吹くとコップに風が溜まるよ。そうすると回るよ」
Hちゃん：「Dちゃん…なんでコップ切った？」
Dちゃん：「あのね。風がここに入ると溜まるが…真っ直ぐだと風が行ってしまうが…」と説明をする。
Dちゃん：「僕のは真っ直ぐだわ…風が吹いても回らんかな…さっきちょっと回ったけど…」
Hちゃん：「Iちゃんも真っ直ぐだよ」
Iちゃん：「まだ考え中だけんね」



- 一人一人で活動をしているように見えるが、友達と会話をしながら自分の風車と友達の風車の違いに気付き遊びを進めている。

✦ 風力発電が見たい！

Yちゃん：「先生、北山の風車が回っているが…あれは、電気を作るよ。お父さんが話してごさいた（話してくれた）。お父さんは電気博士だよ」
保育者：「そうだね。お父さんに聞きたいね。なんで風車で電気が起きるか、みんなが知りたいと言っていたよね」
Dちゃん：「ビュンビュンと力が出るんだない？」
Hちゃん：「でもあんまり回ってないが、不思議」
Yちゃん：「みんなで行って調べてみる？」
Hちゃん：「それはいい！どれくらいの力か…」

Sちゃん：「私も行って見て考える」

Tちゃん：「何を考える？」

Sちゃん：「だって私の風車大きいけん絶対電気ができる」

IちゃんとHちゃんとAちゃんたちはしきりに「行こう行こう！」と催促する。

保育者：「何を見に行きたいの？見てどうするの？」と問いかける。

Dちゃん：「どうして風車から電気ができるかを見たい」

Yちゃん：「風で電気が本当にできるか見たい」

Sちゃん：「あのね。見て勉強して自分の風車を考える…」



- 保育者は多くを語らず行くことを即決する。子どもたちは「ヤッター」「本物が見える」「楽しみ」と大喜びをする。

✦ 風力発電を見に行く

- [十六島の山の頂上にそびえ立つ風力発電](#)を見ると、子どもたちは「わぁー」と叫び声をあげる。ものすごい大きさに圧倒される。ゆったりと、どっしりと回る風車を見ながら会話が少しずつ始まる。地響きがし、気味な音が呻っている。

Sちゃん：「なんか音がする…怖い！」

Dちゃん：「大きすぎるわー一足が変…寝転がって見た方が…わぁー怖い！」

- みんなが寝転んで見る。

Mちゃん：「空が青くて、風車が白くて、きれい…」とつぶやく。」

Hちゃん：「大きすぎるわ…電気ができるんだね…音が響く」

Yちゃん：「パンフレットがあるよ。もらってもいいかな？」

- みんなでパンフレットを見ながら話が弾む。出雲市にはエネルギーパークがあり、風力発電があらちらにある。その中の一角にある電気量を測定している場所を見付けて。



Dちゃん：「見て！電気のできているよ！」

Iちゃん：「本当だ！風って役に立つね！」

Aちゃん：「私の風車でやっぱり電気を作るわ…作りたい！」

Yちゃん：「お父さんだ！聞いてみる」

✦ よく回る風車を工夫しながら作る

- 一人一人が自分の風車作りを続けている。十六島に行ったことから、より意欲的に続けている。

Kちゃん：「先生、ノコギリ貸して。自分で切るから…」

Dちゃん：「いよいよ 回るかな…Yちゃん、どう思う？」

Yちゃん：「いいと思う。かっこいいね」と褒める。

Tちゃん：「大きいから十六島とどう？」

Iちゃん：「回るよ…絶対大丈夫！」

- 一人一人が自ら考え工夫しながらよく回る風車を作ることを楽しんでいる。自分の風車と友達の風車を見比べたり、回り方を教え合ったり、友達の工夫を認めたりする姿が多く見られるようになってきた。



✦ 力を合せて風車を作る

- その後Yちゃんの父親（電気博士）に園に来ていただき、待望の話を聞く。
- そして、また、子どもたちは、友達と風車作りを始める。

Hちゃん：「みんなの力はすごい！」と言う。

Sちゃん：「そうだよ…力を合わせるとなんでもできるね！」と大満足。

- しかし、風に煽られて、羽が一枚折れる。Yちゃんが「もう一度頑張ればいい！」Dちゃんが「僕たちだったらできるもん！」と言うと、みんなが力強く。「うん そう！」とうなずく。



✿ 実践を振り返って

- 一人一人で活動をしているように見える時も、実は友達と会話を交わしながら、自分の風車と友達の風車の違いに気づき、遊びを進めていることが分かった。また、回り方を教え合ったり、友達の工夫を認めたりする姿が多く見られた。その関わりを保育者が見逃さずに認め、友達の関わり大切さに触れるようにしてきた。
- 十六島の山にある風力発電は圧巻である。保育者も足が竦む。子どもたちは「風で電気ができる不思議を見付けたい」というねらいがあるので必死であった。一人一人が真剣である。不気味な音に驚いたり、パンフレットを見て話し合ったり、電気測定機械に感動したりしていた。実際に側まで出かけてみて、巨大な風車に感動し、本当の風車を体感できたことが、その後の意欲と興味の深まりに繋がった。
- 保育者が、子どもと共に、同じ目線で感動を共有することは、子どもとの信頼関係がより深まり、意欲や頑張ろうとする逞しい力に繋がると感じた。
- 子どもたちの、汗を流して十六島の風力発電に負けない風車を作りたいという強い願いに、保育者自身子どもと一緒にもう一度挑戦したいという強い気持ちになった。これは、一人一人の子どもが育っていることであり、遊びへのエネルギーは衰えることなく燃えるのであったと思った。『科学する心』が育つとはこういうことではないかと考える。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」